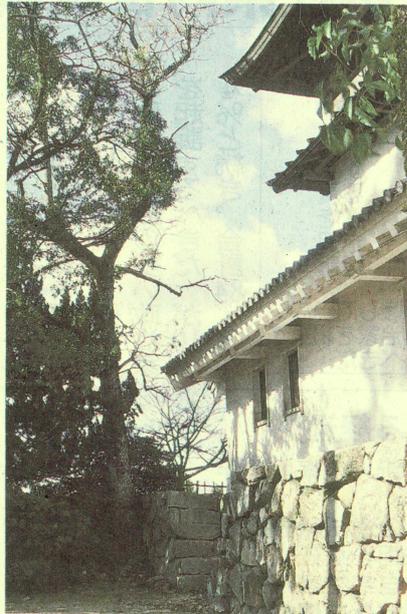


天守見上げたタキリ琴に 広場で伐採 市内業者が6面製作へ

福山市伝統の福山琴を製造する業者が、福山城の天守前広場で伐採されたタキリ材を使った琴作りに乗り出した。築城400年を迎える来年から6面を順次仕上げ、市などに寄贈する。このうち1面は、来年8月の福山城博物館の改装オープンに合わせて披露。街のシンボルゆかりの木材を材料にすることで、需要の減少や職人不足の危機に直面する名産品をアピールする。(村上和生)

記念式典で 演奏を計画



天守前広場にあったタキリ
(福山邦楽器製造業協同
組合提供)

築城400年へ

福山城

天守前広場を含む福山城公園(丸之内)では、市が本年度までの4年間で園内の樹木約800本のうち3

00本ほどを切る計画を進めている。伸びた根が石垣をずらすなどの影響を防ぐためだ。琴の材料となるタキリは樹齢60年ほどで、天守前広場の鐘櫓近くに1本だけ植えられていた。

三島屋楽器店福山工場(瀬戸町)の中嶋和輝工場長(46)が昨年夏にタキリの存

在を知り、伐採後の昨年12月に譲り受けた。既に長さ約2メートルに切り分けており、今後は市内に6社ある業者が1面ずつ製造する。

完成後は公共施設での展示や演奏会に、幅広く役立ててもらおう考えだ。このうち1面は築城400年に合



譲り受けたタキリ材の前に、琴作りの計画を話し合う中嶋工場長(右端)たち

わけて披露するため、乾燥などの工程を早める。市は来年8月28日の築城記念日に合わせて開く、博物館の完成式典での演奏に使う方向で計画している。

福山琴の製造には、福島県などから取り寄せたタキリを使うことが多い。琴の演奏の愛好者が細る中で、福山琴の生産は減少が続いている。中嶋工場長は「立派なタキリが福山で手に入るの

は珍しい。伝統をつなぐきっかけとして大事に仕上げたい」と意気込む。

福山琴の生産は江戸時代に始まり、歴代の福山藩主の奨励で盛んに演奏されたという。市文化振興課の渡辺真悟・築城400年事業推進担当課長は「城と琴の縁は深い。節目の築城400年を機に双方に光を当て、広く価値を再認識してもらいたい」と話す。